

第3回 小中一貫教育推進懇話会

協議「福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てるために福山の子どもたちに取り組みたい教育活動」における意見集約

2013年（平成25年）1月29日（火）10:00～12:00

分類	概要		意見
小中一貫教育の在り方について	地域のコミュニティづくり		<ul style="list-style-type: none"> 小中一貫教育のもともとの原点は、中学校区という地域のコミュニティが、子どもたちの成長に責任を持って育てるというもの。地域のコミュニティが出来上がっていないければ、小中一貫教育は進まない。
	小中学校教員の協働		<ul style="list-style-type: none"> コラボレーションは、「きょうどう」。ある一つの目的に向かって力を合わせてやるという共に同じという「共同」。いろんな意見を議論して新しいアイデアを生み出すという協力して同じという「協同」。対立を乗り越え、調整して解決策を出すという協力して働くという「協働」などがある。 小中一貫教育は、小学校と中学校の先生が、文化の違いを乗り越え一緒に研修を受けることによって、新しい何か違うものを生み出していくという「協働」である。
	学校選択制度		<ul style="list-style-type: none"> 学校選択制度によって、5%前後の中学生がふるさとを離れて他の校区へ行く。その場合、どういう取組みをつくっていくのか。小中一貫教育の推進と、この学校選択制度の関係をどう考えるのかが気になる。 小中一貫教育は、将来的には地元の学校へ行くことが一番すばらしいという意識を、みんなに持たせる取組みだと捉えることができる。中学生を輝かせて、小学生にあの中学校へ行きたいと思わせるような中学校になっていることが重要。少しずつそういう芽が吹いているのが福山だと思う。
子どもたちに求める姿	福山に対する愛着と誇りを持つ		<ul style="list-style-type: none"> 我がふるさと福山に対する愛着とか誇りを持ってもらいたい。社会に出たときに、我がふるさとのことを自信に思って頑張れる。そういう力を9年間で身に付けさせたいと思う。
	5つのC 「コミュニケーション」 「コラボレーション」 「クリエイション」 「チョイス、チューズング」 「チャレンジ」		<ul style="list-style-type: none"> 4つではなくて、5つのCとして、もう一つチャレンジというのを入れたらどうかと思う。 挑戦していく、特に福山は、こういうコミュニケーションとかコラボレーションとかクリエイションとか、こういう力を持って、新しい物に挑戦していくというのを入れると5つのCになるので良いのではないかな。 特に学習意欲にも関わるので、チャレンジも福山には大事だと思う。チャレンジは、元気付けていくということでもある。 挨拶というのは、市民アンケート集約の中にも出てきますが、コミュニケーション力にもつながっていくと思う。 日本人は人との対話が非常に下手。コラボレーションという、いわゆる皆さんと仲良くするスキルを身に付けて欲しい。「意見のやり取り」「じっくり聞いてそれを受け止める」「しっかり聞いてそれを返す」などを、先生方には小学校1年から授業の中にいろいろな形で取り入れて欲しい。
	規範意識を持つ 挨拶ができる		<ul style="list-style-type: none"> 私は、普遍的なことで、不易があると思う。昔から知徳体とよく言われますけれども、今日的に言えば規範意識をしっかりと持たせたい、確実に子どもたちに身に付けさせたい。 一番は挨拶です。きちんと当然のように挨拶ができる子どもであって欲しいと思う。 (再掲)・挨拶というのは、市民アンケート集約の中にも出てきますが、コミュニケーション力にもつながっていくと思う。 学校で挨拶するのはもちろん、地域に挨拶することによって、地域の方々と様々な話ができるようになると思う。挨拶が行き交う街になったら良いと考えている。 大人が挨拶して、教員もして、挨拶ができる子どもを育てる。子どもだけでは、なかなか挨拶をするという文化が育たない。
(仮称)ふるさと学習について	実施にあたって	<ul style="list-style-type: none"> ・自信 	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと学習は、子どもたちが生まれ育ったふるさとを にした物 づくり。その に「 」が入ると、 の物 を見つけたり生み出したりするようになる。 再掲 ・我がふるさと福山に対する愛着とか誇りを持ってもらいたい。社会に出たときに、我がふるさとのことを自信に思って頑張れる。そういう力を9年間で身に付けさせたいと思う。
		教育	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションとか福山への愛着などは、 ・ 間のふるさと学習では育たない。教 ・ 域 体で取組みながら、とりわけ、ふるさと学習では 点化して取り組 など、学校教育だけでなく、 ・地域などとの一体の取組みとしていく 要がある。 徳の学習 要 では、 かな を育 点として「自分自身に関わること」「人との関わり」「社会への 」などが大事にされている。これは、福山がめ しているものと同じ方向 だと思う。したがって、ふるさと学習も生 ・ 合的な学習の 間だけでなく、教育 体にしっかりと 付ける 要がある。
		ー ルからグ ー ル	<ul style="list-style-type: none"> 福山を学んでいることが実は につながっている。地域の ー ルなことを学んでいることがグ ー ルになっている。福山のことを考えているときに、同 に について くとらえるのも大事。 福山で生まれ育った子どもたちが、福山を することを して社会をより良くする、 をより良くするという のある学 が大 だと思う。子どもたちが地域に出て、地域を良くしていく学習は、 を良くしていくことの 習のようなもの。

分類	概要		意見
(仮称)ふるさと学習について	実施にあたって	徳教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 化の しい社会をたくましく生きる子どもたちには、 のルールを るとか ラルを持つなどの 徳的 に ついた教育が 要である。 再掲 ・ 徳の学習 要 では、 かな を育 点として「自分自身に関わること」「人との関わり」「社会への 」などが大事にされている。これは、福山がめ しているものと同じ方向 だと思う。したがって、ふるさと学習も生 ・ 合的な学習の 間だけでなく、教育 体に しっかりと 付ける 要がある。
		体 ・ 意欲 ・ 自	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今の子どもたちは、 えられたものを にして考えていくとか、決められた 番に物事を行う学習をしている。自分から学 うとしたり、自分で りあ ていくという学習をさせる がいるのではないか。 ・ 子どもたちが福山を学 たくなって、ふるさと学習を して 体的に学んでいく、意欲を持って調 ていく。そのような学習にしなければ、エ ー として子どもたちの中にふるさとが っていない。大人になって へ出て行ったときに、福山を れるような学習にしなければならないと思う。 ・ 地域の方に自分たちの学習したことを したり、 したりする を けることで、子どもたちは意欲的に学習に取り組 ようになる。 ・ 学 を で る取組みを行なった学年と校内の を行なった学年とでは、前 の方が自 が まった。 は、地域の方々に められる 会が かったからだと考えられる。 に出て地域から められるとか、 の中から められるというのが チ ーションを上 る。
		・ 成	<ul style="list-style-type: none"> ・ イン ー トや だけで調 るのではなく、地域の方に聞きに行ったり、地域へ調 に行ったりする がないと、学習内容が自分のものにならない。体 して、実 し、 しないと子どもは わらない。 ・ まず、自分の学校に愛着や誇りを持ってもらいたい。そのために、「学校生 の中で できた」「仲間との を確 できた」と じさせたり、「自 になるような や文化が学校にある」と気付かせるような取組みをしていく 要がある。 ・ を協力して乗り越える ジ クトを、みんなで力を合わせてやり た に が生まれ、それが誇りや愛着の ースになっていく。 ・ 学習の中で、ふるさとを っただけではいけない。 が生まれるような体 など、どうやって り んでいけばよいかを考えることが 要。 ・ の一 など、みんなでやったという 成 。これが誇りや 愛を持つことにつながると思う。子どもたちが同じ目 を掲 て 成するという気持ちが一番大 だと思う。
	学習方法・内容	体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「 や の 体 をして学 」 「 体 をして 文化を学 」ことを して、自分たちが んでいる地域の人とのつながりを じることが身に付いていると思う。 ・ 「小中で地域の の とか挨拶 を行う」などの を、校 を えて一緒にすることを して、それ れの良さを じるという体 ができている。 ・ 子どもが ばあち ん じいち んのところに行くチャンスを、どこかの学年に取り入れて欲しい。5年なら5年で みの体 の中に、いわゆる福 に関わる体 を入れて欲しい。 ・ 地域 へ 先して し、 や などの をする中で、子どもたちを学ばせて欲しい。少子化もあるが、地域離れも している。この点をどうにかしないといけない。 ・ ふるさと学習で、学校から に出て地域や福山をよくしていこうという取組みは、子どもたちの将来に何かを していく。知識として知っていても、そういうエ ー がないとふるさとを物 として れない。
		年上の子が年下の子を教える	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校 年生に、「言 よりよい福山をめ して」があるが、ア ト ト の学習は、小学校 年生くらいでやれるのではないかと思う。 ・ よりよい福山をめ してというのは しる中 で行なって、後 になるとよりよい日本とか をめ してと ることができると思う。 ・ 子どもたちが学校で学んだもの をって、地域のコミュニティをより良くしていくために、 に出て何ができるかを考えていこうとする様な学習（ ー スラーニング・ ジ クトラーニング）。ふるさと学習では、それを大きな にしているところが特 だと思う。 ・ 地域ボランティアなどを リキュラ の中に 付ければ、地域 が まっていく。しかし、つくるとなると容易ではない。また、これを できる先生を育てて かないといけない。 ・ 地域に していく ー スラーニングや、地域の を したり地域の良さを 信していく ジ クトラーニングが、このふるさと学習の大きな特 になれば、後に り返った に、福山に生まれ育って良かったとの思いが育つのではないかと している。
		<ul style="list-style-type: none"> ・ 教えるということも教えてやらないといけない。中学生の子どもが小学生の子どもに教えてやるという教育をしていけば、つながりが出ると思う。 ・ 上の子がち んとすれば、下の子もきちんとできるようになる。小中一貫の9年間を考えると、そういうことを える教育をして欲しい。 ・ 自分で をして、 手の1つ上を行かないと教えてあ ることができない。そうすると、自分で物事を学 うということにつながると思う。 ・ 中学生が小学生の教 や先生になる。そういう交 の場を けるという ができるのではないか。 	

(仮称)ふるさと学習について	分類	概要	意見
(仮称)ふるさと学習について	学習方法・内容	対話を取り入れた	再掲 ・日本人は人との対話が非常に下手。コラボレーションという、いわゆる皆さんと仲良くするスキルを身に付けて欲しい。「意見のやり取り」「じっくり聞いてそれを受け止める」「しっかり聞いてそれを返す」などを、先生方には小学校1年から授業の中にいろいろな形で取り入れて欲しい。
		や地場業	<ul style="list-style-type: none"> ・小中一貫で、「福山の や 」 「福山には、日本を 化させたどういう 業があるか」などを教えて欲しい。 とか地場 業とか、そういうを小さい に教えてもらって くと、 へ出たときに良いと思う。 ・小学校 年から中学校1年へと や考え方が大きく わる に、福山のものづくりについて学んで欲しいと思う。
	リキュラ		<ul style="list-style-type: none"> ・ リキュラ があるというのは、とても学校から見たらありがたい。そこに自分たちの地域のエキスをどうやって入れるかが非常に大 。地域の中でできる何かを見つけて、一生 それをさせることや、地域 を生かしながら取り組んでいくことが大事だと思う。 ・ 合的な学習の 間は、中学校区 とに地域 着 で 意 をしていくものなので、ふるさと学習の リキュラ の 組みは、きめ かく らないで、前・中・後 の目 を すだけの方が良い。あまりきめ かく り ると、学習内容が 一化になり、子どもや先生の学 意欲を かない。
			<ul style="list-style-type: none"> ・ 愛や誇りというものが1つのキー ー になっていると思うが、 はどうなるのか。愛や誇りは、 できないのではないか。 ・ 合的な学習の 間は、 学校がめ す子ども に づいて、特 ある学校教育、学校 りを していくために けられた 間なので、 学校が 意 して目 や の 点を できる。 ・ 事 が した「学習方法」「自分自身」「他 や社会との関わりに関すること」が の 点になって目 が され、校区がいろいろな方法でしていくことになる。 ・ 事 が した 点の中には、福山に関しての 点がない。福山ふるさと学習なら、ふるさと福山についての目 の 点が1つ入ってこないといけない。
教 の力		<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校の校長先生方には、はっきりと方 を立て、 え、協力を など、大きな 信力や 力を して欲しい。 ・ 地域の に しい方々による ィール ークに し、 のある話を聞くことは、先生方にとって、 い や教 の 見になるのではないか。 ・ ふるさと学習の教 研 は、先生方がふるさと学習をやってみるということ。どんなに地域の方に協力していただいても、 後は先生が 大の になる 要がある。 ・ 教育は、先生 。ふるさと学習を して、先生を育てていくという、もう一つの リキュラ , グラ をつくる 要があるのではないか。 	